

3 / 26

「朝日里山ファーム」第1期生の修了式 この春から、小林さん夫妻の挑戦が始まる



(写真左から) 2期生の尾花孝治さん・優子さん夫妻、1期生的小林一さん・木綿さん夫妻、3期生の青木篤志さん・慶子さん夫妻

石岡市の新規就農研修制度「朝日里山ファーム」の第1期の研修生、小林一さん・木綿さんが研修を修了し、小見で農業をスタートさせます。一さんは、もともと大阪府で建設コンサルタントとして働いていましたが、2年前、家族で石岡市に移住。開墾したばかりの農地で、研修をスタートしました。「たくさんの人に助けられ、ここまで来ました。独立したら、これまで以上に大変なことがあると思っています。しかしその苦勞を喜びに変え、新しく農業に関わる人たちを指導していけるような生産者になっていきたい」と力強く話しました。



▲朝日里山学校の隣にある、小林さんが研修した畑は次の研修生に引き継がれます

朝日里山ファームとは

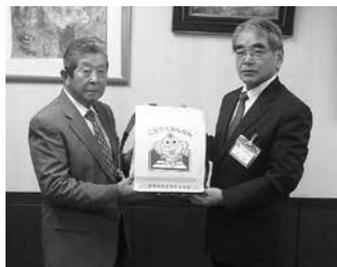
体験型観光施設・朝日里山学校内にある新規就農者研修と農産物加工の2つの機能を持った農場。

毎年1組の夫婦を研修生として受け入れ、有機農業の研修を2年間行っています。朝日里山学校を運営しているNPO法人アグリやさとが研修生の指導を行います。これはJAやさとの有機農業の担い手育成制度「ゆめファーム」を参考に作られました。平成29年度からスタートし、現在は2・3期生が研修を行っています。

農産物加工施設では、地元で栽培されてきた「エゴマ」を搾油し食用油や加工品開発などに取り組んでいます。

3 / 26

子どもたちの通学を見守る 黄色い帽子・防犯ブザー・ランドセルカバー



今年、市内19の小学校に入学した児童は全部で513人になります。

交通事故から子どもたちを守ろうと、毎年市内の企業や団体から入学祝い品として以下のものを贈っていただいています。これらは小学校を通して新入学児童に配られます。

〔寄贈者・敬称略、写真左上から時計まわり〕

黄色帽子 (3月26日)

- ・新ひたち野農業協同組合 (久保田恵一組合長)
- ・やさと農業協同組合 (浅野建二組合長)

ランドセルカバー (3月26日)

- ・石岡地区交通安全協会 (吉川勇会長)

防犯ブザー (4月4日)

- ・(株)常陽銀行 (沢畑公明石岡支店長)

1 / 17

筑波流の技術を今に伝える 88歳の茅葺き職人、廣山美佐雄さん



茨城県は関東の茅葺き王国といわれる場所ですが、石岡市はその中でも、特に茅葺き民家が多く残っている地域です。

この地区の茅葺き民家は、筑波流と呼ばれ、「キリトビ」と呼ばれる屋根の部分や「トオシモノ」と呼ばれる稲わら古茅などが何層も重なった軒下など、凝った装飾が特徴。

伝統の筑波流の技術を現代に伝えるのは、廣山美佐雄さん（小美玉市在住）。24歳から茅手と呼ばれる茅葺き職人の道に入り、平成24年度に「卓越した技能者表彰（厚生労働省主催）」、平成27年度に模範となる技術者に贈られる黄綬褒章を受章されました。

「おれたちの時代は、手取り足取り仕事を教えてもらうなんて時代じゃなかったからよ。全部、自分で見て覚えなきゃなんねえ。昭和30年半ばには茅葺きの家も減って仕事は大変だったけど、目の前の仕事、手を抜かないで一生懸命やるだけよ。63年やっているけど慣れるってことはないな。仕事するってのは死ぬまで修行だよ」と話す廣山さんは、今年で88歳。自分の培った技術を、石岡にいる若手の職人に伝えています。



◀廣山さんから技術を学ぶのは、常陸風土記の丘の職員の渡邊大さん（写真左）と江戸達郎さん（写真右）。



1月17日は佐久で観光ぶどう園を営む大場克巳さん宅（国登録有形文化財）の葺替え作業。家主の大場さん（82歳）は「茅葺き屋根は農村の原風景。維持するのは簡単なことではないが、これからも守っていきたい」と話します。

3 / 23

常陸國總社宮を舞台にした「間の祭り」 18組のアーティストが作品を展示

平成26年の「無何有の祭り」から始まり、「数多の祭り」、「風土の祭り」と回を重ね、4回目となる間の祭り（3月11日～4月13日）が行われました。企画しているのは、石岡市出身の彫刻家、浅野暢晴さん。平成が終わり新たな時代を迎える「時代の間」をアーティストがそれぞれの解釈で表現した作品が境内に展示されました。

3月23日には、国際芸術祭・中之条ビエンナーレ（主催中之条町ほか）の総合ディレクターを務める山重徹夫さんと常陸國總社宮禰宜の石崎貴比古さん、企画者の浅野さんによるトークイベントが行われました。

ビエンナーレがきっかけで中之条町に移住した山重さんは「中之条に美術館はないけれど、まちを訪れるアーティストとの交流で子どもたちは最先端の美術教育を受けられている」と話し、アートと地域の関係についての示唆に富んだお話を聞きに、作家など30人以上が訪れました。



（写真左から）石崎貴比古さん、山重徹夫さん、浅野暢晴さん（トークイベント終了後にて）